更新　平成 21 年 2 月 12 日

簡易型電文設定器に関するご質問の回答

この資料は、実際にご質問のあった内容についての、ご質問及び回答をまとめたものです。
型式名の書いてない項目は、ＳＴ－３０１Ｃ、ＳＴ－３０２Ｃ、ＳＴ－４０２Ｃ、ＳＴ－４０３Ｃ、ＳＴ－４０３ＣⅡ共通です。

Ｑ14　設定通信を行った後、本当に設定されたかを確認通信を行って調べる必要がありますか。
（ご質問者：メータメーカ様　2009 年 2 月）

Ａ14　簡易型電文設定器は、設定通信を行なう場合、通信の最後に要求電文を送り、正しく設定されたかを確認し、正しく設定された場合、設定「成功」と表示します。そのため、設定通信を行った後に、改めて確認通信を行なう必要はありません。
但し、対象簡易型電文設定器の開発当時に存在しなかったマイコンメータ（例：マイコンＳ４、Ｅ、Ｅ４、ＥＢ）は、正しく設定されたにもかかわらず、設定「失敗」Ｅ－０エラーになることがあります。この場合、同じ項目コードの確認通信を行なっても、確認「失敗」Ｅ－０エラーになります。
設定器とマイコンメータの対比については、簡易型電文設定器のマイコンメータ対応表を参照してください。

Ｑ13　Ｃ表示遮断（合計流量遮断、増加流量遮断）をしたが、設定器で遮断詳細データ値を見ると最終の遮断履歴が１１（合計流量遮断、使用時間監視区分１）になっている。なぜ使用時間監視区分１なのか。（ご質問者：ＬＰガス事業者様　2008 年 12 月）

Ａ13　合計流量遮断の場合は、一定時間内に合計流量が超えたと判断した時点で遮断します。そのために遮断したときの使用時間監視区分の判断はできません。合計流量遮断をする前の流量監視区分がデータとして入ります。
今回の場合、ガス流量停止状態から合計流量遮断判定流量を超えるガスが流れたものと推定されます。

Ｑ12　ＳＴ－４０３ＣⅡでセキュリティデータ２をみるために、アドバンスドモードにして、モード２　項目コード１４の確認通信をしたが、セキュリティデータが表示された。
（ご質問者：メータメーカ様　2008 年 11 月）

Ａ12　ＳＴ－４０３ＣⅡのアドバンスドモードは、モード２　項目コード１４の確認通信は、セキュリティデータとセキュリティデータ２の通信を交互に行います。セキュリティデータ２を読みたい場合は、最初の確認通信でセキュリティデータを読み、２回目の確認通信でセキュリティデータ２を読む必要があります。セキュリティデータ２を読んだときは通信終了後に項目コード１４が点滅します。詳しくは取扱説明書 P.2 を参照してください。

（参考）
モード１　項目コード１４　圧力異常警告項目／圧力異常回数の確認
モード２　項目コード１５　遮断詳細データ値／使用時間遮断延長履歴の確認
　　項目コード１６　微少漏洩タイマ値／流量式微少漏洩判定日数の確認
でも、同様の動作をします。
但し、マイコンメータに偶数回目の通信項目がないか、機能が停止しているときは、偶数回目の通信結果も奇数回目の通信結果の表示になります。（使用時間遮断延長履歴を保有するマイコンメータは 2008 年 11 月時点ではまだ発売されていませんので、挙動確認はしていません。）

Q11　通信環境が変更になり、端末発呼方式にしたために集中監視センタからメータ制御コード値の変更ができなくなった。簡易型電文設定器での発呼タイプの変更方法を教えてほしい。
（ご質問者：ＬＰガス事業者様　2008 年 7 月）

Ａ11　アドバンスドモードのある簡易型電文設定器でメータ発呼条件の変更が可能です。
メータ制御コード値を直接書き換えますので、こちらの指示どおり操作してください。と操作方法を説明しました。
2008 年 7 月 10 日にメータ発呼条件の変更方法を追加しましたので、メータ発呼条件の変更方法を参照してください。

Q10　供給圧力(最大値・最小値)の確認、閉塞圧力(最大値・最小値)の確認を行なうと、Ｅ－１エラーになった。（ご質問者：メータメーカ様　2008 年 4 月）

Ａ10　マイコンメータの供給圧力監視機能が停止されている場合は、供給圧力(最大値・最小値)・閉塞圧力(最大値・最小値)の監視機能も停止します。そのために、供給圧力(最大値・最小値)の確認、閉塞圧力(最大値・最小値)の確認を行うと、未定義応答が返りますので、簡易型電文設定器はＥ－１エラーを表示します。
また、初期のマイコンＳに閉塞圧力(最大値・最小値) の監視機能がないものがありますが、既に検満を迎えています。
【参考】
供給圧力監視機能が停止されている場合は、モード１の８～１１ 確認通信を行うと、通信結果の項目コードは１０または１１を表示します。

Ｑ９　ＳＴ－３０１Ａを修理してもらいたいが、修理可能ですか。
（ご質問者：ＬＰガス事業者様　2006 年 12 月）

Ａ９　ＳＴ－３０１及びＳＴ－３０１Ａにつきましては、2006 年 10 月をもって修理業務を終了いたしました。
簡易型電文設定器の故障は、通信線の断線及び乾電池の液漏れによるマイコンコントローラの腐食(回路の短絡等)がほとんどです。
通信線の断線は、断線箇所によって簡易修理可能ですが、その他の故障については補修用部品がありませんので修理不可です。
廃棄される場合は、本体の通信線をハサミ等で切断し、切断した通信線、乾電池、取扱説明書、及び梱包箱を別々にして一般消費者が使用できないような処理をして廃棄されるようお願いいたします。
（ご参考）
簡易型電文設定器のモード１(ON/STRAT キーのみを押して電源オン)の設定／確認コードは共通になっています。ＳＴ－４０３Ｃに買い替えされても違和感なくご使用いただけます。

Ｑ８　残量管理機能のデータ移植時のデータ部表示について知りたい。
（ご質問者：メータメーカ様　2006 年 7 月）

Ａ８　簡易型電文設定器のデータ部の表示は、セグメント数の制限から 8.88·8.88 になっています。そのため、残量警告レベル及び残量管理カウンタが１２３．４５６ｍ^{3}の場合、１２３･４５６と表示します。「･」の左側は「ｍ^3」を、右側は「リットル」を表しています。正しく数値として読む場合は、「･」を「.」と読替えをお願いいたします。
また、残量警告レベル及び残量管理カウンタの「ｍ^3」の桁は、ゼロサプレス表示をしますので、残量警告レベル及び残量管理カウンタの応答電文のデータ部(10^6～10^1)が０１２０３４の場合は、「　１２･０３４」と表示します。
【ゼロサプレスの意味】
指定した桁数に満たない数値を文字として表現するときに、先頭の「０」を削除する、もしくは空白で置き換える処理のこと。

Ｑ７　モード１の項目コード７(残量管理機能のデータ移植)で、残量管理機能のデータの移植をしようとしたら、Ｅ－０エラーになった。(ご質問者：メータメーカ様　2006 年 7 月)

Ａ７　モード１の７ 確認(データの読込み)通信で、旧メータに残量警告レベルが入ってない(残量管理警告レベル１，２，３のデータの全てが０になっている)場合は、旧メータでは残量管理機能を使用してなかったとみなします。そのため新メータに７ 設定(データの書込み)通信操作を行うと同時に、Ｅ－０エラーになり、設定通信は行いません。
また、旧メータのデータ読込みをせずに、設定(データの書込み)通信を行うと、設定器には移植すべきデータを記憶していませんので、設定通信操作と同時に、Ｅ－０エラーになり、設定通信は行いません。
(注記)
- ７ 確認通信で、通信中は約２秒間隔でデータ表示部に、残量警告レベル１ → 残量警告レベル２ → 残量警告レベル３ → 残量管理カウンタの順で表示します。そのときに、旧メータに残量警告レベルが設定してあるか(０以外の数値があるか)どうかを確認してください。残量警告レベル１，２，３の内、１つでも０以外の数値がある場合は、移植します。
- マイコンメータの残量管理カウンタは、残量管理機能を使用してなくても、データを持っています。
- 残量管理機能のデータ移植を持つ簡易型電文設定のモード１の項目コード ７(残量管理機能のデータ移植)は、全て同じ仕様になっています。
- この機能は、異なるメータの種類間、メータメーカ間を問いません。旧メータに残量警告レベルが設定してある場合は、正しく移植が可能です。

Ｑ６　簡易型電文設定器とマイコンＳの圧力センサを利用して漏えい試験ができますか。
（ご質問者：関係協会様　2006 年 6 月）

Ａ６　以下の方法で漏えいの有無の試験はできますが、液石法・例示基準第 29 節の漏えい試験の方法を満足していません。
試験方法例
① 供給圧力以上がかかった状態で、調整器下流のガス栓を閉じます。
② マイコンＳの通信端子に、簡易型電文設定器を接続し、モード１の１５ 確認(現在圧力値の確認)通信を行い、データを控えます。
③ ２分(または５分)後に、再度１５ 確認通信を行います。
④ 現在圧力値の差が０．０５ｋＰａ以内の場合は、漏れの可能性が少ないと判断します。
(注記)
・液石法・例示基準第 29 節の漏えい試験の代替にはなりません。
・５ｋＰａ以上の圧力がかかっている場合は、マイコンＳの現在圧力値が過圧(飽和)状態になっている可能性があります。２．８ｋＰａ以上５ｋＰａ以下で行ってください。
・マイコンＳが遮断中のときは、上記①～④の方法により調整器下流のガス栓からマイコンＳの入口までの漏えいの有無の試験ができます。

Ｑ５　ＳＴ－４０３Ｃでモード３の移植(書込み)中にデータ部の表示が点滅することがある。
（ご質問者：ＬＰガス事業者様　2006 年 6 月）

Ａ５　旧メータのデータ(設定内容)を、そのまま新メータにそのまま移植できなかったデータ桁が点滅します。移植中(項目コードＯ)または移植後(項目コード１～３)に点滅している数値(またはキャラクタ)は、新メータに旧メータと異なる設定がされたデータで、新メータに設定されたデータを表示します。
データ部が点滅する要因として以下のことが想定されます。
・種類の異なるメータに移植した。
・出荷モード中、遮断中、復帰安全確認中に移植した。
・旧メータは警報器接続であったが、新メータには警報器接続をしなかった。
・メータメーカ独自の設定項目があった。
・マイコンＳＢでメーカの異なるものに移植した。
(注記)
内容によっては、旧メータのデータ(設定内容)をそのまま新メータにそのまま移植できなかったことを表しているだけで、点滅を無視しても良い場合があります。

Ｑ４　ＳＴ－４０３Ｃを使用して、メーカの異なるマイコンＳに移植ができますか。
（ご質問者：ＬＰガス事業者様　2006 年 5 月）

Ａ４　メーカの異なるマイコンＳ同士の移植は可能です。
但し、旧メータ(読込み側のメータ)にメータメーカ独自の設定項目がある場合は、メーカの異なる新メータ(書込み側のメータ)はメータメーカ独自の設定項目は無視することがあります。この場合、移植されなかったデータ桁は点滅します。
(注記)
検満のマイコンＳのデータを最新のマイコンＳに移植する場合は、検満を迎えるマイコンＳにはメータメーカ独自の設定項目が無いと思われるため、メーカが異なってもマイコンＳ同士の旧メータから最新のマイコンＳへのデータ移植は、設定項目を無視することなく移植は可能と考えられます。

Ｑ３　ＳＴ－４０３Ｃで電源オフしようとして ON/STRAT キーを押したら、通信を開始した。
（ご質問者：メータメーカ様　2006 年 5 月）

Ａ３　ＳＴ－４０３Ｃ以外の簡易型電文設定器は、ON/STRAT キーを押して０．１秒後に通信を開始しますが、ＳＴ－４０３Ｃは、ON/STRAT キーを押してその後３秒以内に ON/STRAT キーを離したときに通信を開始します。そのため、電源オフ(ON/STRAT キー３秒押し)しようとして、ON/STRAT キーを押して３秒以内 ON/STRAT キーを離したら通信を開始いたします。
（ご注意）
電源オフしようとして ON/STRAT キーを３秒以内に離したら通信を開始して、意図しない設定がされることがあります。安全のため設定器の通信線をマイコンメータから外してから電源オフすることをお奨めします。
ＳＴ－４０３Ｃは、項目コードを０にして、▽キーを３秒押しても電源オフします。

Ｑ２　ＳＴ－４０３Ｃでメータメーカ独自の設定項目の設定ができますか。
（ご質問者：メータメーカ様　2006 年 4 月）

Ａ２　内容が不明なために、対応していません。
マイコンＳＢでメータメーカ間の整合が取れてない(インタフェース仕様書は併記)メータ制御コード値１の遮断設定区分(Ｋ２，Ｋ１)のみ対応しています。

Ｑ１　ＳＴ－３０２Ｃの今後の販売はどうなりますか。（ご質問者：メータメーカ様　2006 年 4 月）

Ａ１　ＳＴ－３０２Ｃは、２００６年３月をもって生産を終了しました。
今後は、ＳＴ－４０３Ｃのみの生産になります。ＳＴ－３０２Ｃについては在庫がなくなり次第販売を終了したします。なお、補修用部品は確保していますので、今後７年程度は修理可能の予定です。